



消えゆく郷土資料を保存せよ

～田中耕一氏 → 県立図書館 → 郷土資料…

郷土資料収集という視点からのインターネットアーカイブ～

県立図書館・竹中 亮



田中耕一氏 県立図書館 郷土資料

本題に入る前に、まず郷土資料について簡単に説明したい。キョウドシロヨウという郷土史からの連想からか、郷土史料、郷土に関する歴史的な資料と理解される場合が多い。実は、富山県立図書館で言う郷土資料というのは、富山県に関する資料全てであり時代の古い新しいは関係ないのである。県・市町村の発行する地方行政資料や高校の同窓会名簿なども含まれるわけで、これはほかの県の図書館では提供できない貴重な独自のコレクションである。

さて、当図書館の所蔵資料に「神通会会員名簿（富山県立中部高等学校同窓会 平成10年）」があり、その369ページに田中耕一氏の名前がある。

平成14年10月9日夜、田中氏の受賞

第一報直後、A新聞の記者は田中氏の実家、高校の担任宅に取材一番乗りを果たしていた。その陰に県立図書館の存在があったことは誰も知らないが、記者は「おかげでトップ取れました」とお礼の電話をくれた。

実は最近、高校の同窓会名簿の入手は難しくなっている。セールスなどに利用され苦情があることを理由に、図書館への提供を拒否されるケースが出てきているのである。将来のノーベル賞受賞者のためにも、県立図書館への提供を継続していただきたいものである。

そうそう、郷土資料のうち重要なウエイトを占める地方行政資料の収集で困っていることがある。近年、県庁やその出先機関に、統計資料、計画書、

各種冊子等の資料の提供を依頼しても、印刷費削減のためもあってか「在庫がない」と断られるケースが増えている。

よくある話として、部数が少ないため県庁内各課と関係先機関+35市町村というカウントで配布されてしまうケースがあるが、そこに図書館はカウントされていないことが多い。

印刷物に関する監査でも問題とされているが、その行政効果というものを考えたとき、配布先について再検討を要するのではないかと。例えば、35市町村ということで35部送ったらどうなるだろうか？市町村の担当課まで届いたとしても、そこまで終わり、そこから住民の目に触れることはおそくないだろう。

しかし、県立図書館に3部配布すれば、

郷土資料コーナーに分類配置され、インターネット検索も可能（<http://www3.tkc.pref.toyama.jp/search/MnclInput.aspx?gakuyu=1>）。

先日、某町総務課から昭和50年度と同町の公債費比率を知りたいという問い合わせがあり、所蔵の「市町村財政の状況（昭和50年度）」から回答したことがあった。どうして自分の町の役場内にはないのか疑問であるが、20年以上

2010年のT県立図書館

（利用者）「T県経済月報」を見たいのですが。」

（職員）「すみません。10年前に冊子体の発行は停止されましたので、あちらの端末でT県のホームページからアクセスしてみてください。」

（利用者）「はあ、そうですか。おや、2005年よりも前のデータは見えないのですか？」

（職員）「ああ、それ以前のデータはT県のサーバーでは保存しない方針のようですね。図書館には2000年までの冊子体ならありますが、インターネット上のデータは収集しておりません。」

（利用者）「本になっていなかったかもしれないが、以前にT県庁のホームページで公開されていた、「新世紀 振興プラン」の内容が見たい。」

（職員）「それは5年以上前のものですね。機構改革もあって担当の課も変わってしまいましたし、以前のデータは残っていないようですね。」

経過すると役所では書類がなかなか出てこないであろう。

これには後日談があり、役場から県の市町村課に問い合わせがあって、そこから議会図書室に照会された後、県立図書館に回ってきたらしい。

きちんとした保存・整理、そして行政効果と県民サービスを考えたときには、資料の配布先として、図書館を「余ったら配布する、その他出先機関」という扱いではなく、「まず、県立図書館分3部」の配布とすべきではないか？

おまけとして、あまり知られていない県立図書館のサービスを紹介します。

新聞雑誌記事見出し検索

<http://www3.tkc.pref.toyama.jp/search/NwsInput.aspx>

富山県に関する主要な新聞記事、雑誌記事の見出しが検索できる。

議会図書室

大きな声では言えないが、議会図書室にいる司書を經由して県立図書館からのサービス（貸出やレファレンス）が受けられる。

（利用者）「昔の ×町のホームページに載っていた情報らしいのですが？」

（職員）「ああ、合併して 市になったところですね、合併前のネット上のデータはもう残っていませんね。」

（利用者）「昔の 町立 小学校のホームページに、最後の在校生2人の書き初めの様子やスケート大会の写真が公開されていたと聞いたのですが？」

（職員）「たしか、5年ほど前に閉校になった小学校ですね。そのころは、学校の統廃合に町村合併が重なって紙の資料もほとんど残っていないんですよ。閉校記念誌も作られたのかどうか。」

～このままだと、こんなことが、どんどん起きてくる～

1. 収集できない刊行物、収集されないまま消えゆく郷土資料

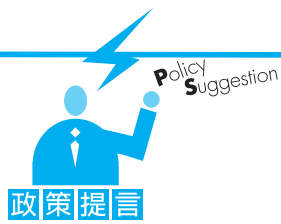
1) 地方行政資料の電子化が進み、冊子体での入手ができなくなりつつある郷土資料の収集は図書館の重要な使命。そのなかでも、県、市町村刊行物等の地方行政資料は相当のウエイトを占める。が、最近、もらえなくなったものがいくつか。具体例を挙げると、富山気象台発行の「富山県の気象概況」（月報）や富山県発行の「とやま経済月報」などが、冊子体での毎月の刊行を停止した。役所の電子化が進んで、印

刷物を作らず、インターネット上でデータを公開して終わり。紙を使わず森林保護にもなるので地球にやさしいという理由もあるのか。

2) ネットワーク上の郷土資料の増加に図書館は対応できていない

また、インターネットでの情報提供は役所だけでなく、個人によるものも増えている。以前なら容易ではなかった出版が、インターネットの普及により身近なものとなり、多くの郷土資料がネットワーク系出版物として存在しているのが現状。

3) ネットワーク系出版物の危うさ
紙に固定された図書などと異なり、更新、変更、削除が容易に行なえるため内容が変化したり情報そのものが消滅したり、位置が移動したことによりアクセス不能となり消滅したと同様の結果となる。また、ネットワーク障害やサーバーの障害によっても出版物へのアクセスができなくなるおそれがある。



2. インターネットアーカイブの衝撃

インターネットアーカイブ（ウェブアーカイブ、ウェブアーカイビングなどとも呼ばれる。）とはインターネットWebサイトのライブラリ（ネット上のデータを電子的に収集してきて整理したもの、ネットワーク系出版物の図書館というべきもの）であり、アメリカのInternet Archive社のWayback Machine（<http://archive.org/>）が世界最大（1996年以降を対象に100億ページ以上）とされている。

ネットワーク系の郷土資料の収集・保存が必要と考えていたがイメージがなかったその時に、インターネットアーカイブを知ってショックを受け、「これだ、これでやればいいのだ。」と感じた。

この仕掛けがどういふものか体験す

るため、首相官邸のページの過去をたどってみる。Wayback Machineに首相官邸のURL（<http://www.kantei.go.jp/>）を入力して、Take Me Back（私を昔に連れてって）ボタンを押す。すると、1996年～2002年までの戻ることが可能な年月日が示される。例えば、1996年12月22日をクリックすると橋本首相が、1999年1月16日に戻ると小淵首相が現れる。（図1）

まさに、インターネットにおけるタイムマシンとも言えるし、図書館とも言える。

3. 国立国会図書館の取り組み

国立国会図書館への納入対象となる出版物は、図書、小冊子、逐次刊行物、楽譜、地図、パッケージ系電子出版物などであり、ネットワーク系電子出版物は除外されている。

平成14年3月、ネットワーク系電子出版物を納本制度に組み入れることに

ついて審議開始。納本制度審議会にネットワーク系電子出版物小委員会が設置され、調査審議が進められている。

平成14年度からは、WARP（インターネット資源選択的蓄積実験事業）を開始。これは、国会や行政機関等のWebサイトを収集・保存の対象とするほか電子雑誌コレクションも含むもの。

4. 地域の公共図書館とインターネットアーカイブ

1) 郷土資料の収集、保存

収集・保存されないまま消えてゆく郷土資料があり、収集・保存する技術があることがわかった。今後の市町村合併に伴う公文書散逸の危険が指摘されているが、インターネット上のデータ消滅の危険性はさらに高い。

こうしてみると、このような郷土資料の収集・保存は、都道府県立図書館が責任を持つべきものではないだろうか。

2) 具体的なプラン

富山県立図書館の場合を想定して、次のようなプランを提案してみたい。

郷土資料の統合データベース「とやまデジタルライブラリ」構築（図2）を目標に、2～3年計画で取り組むこととする。

平成15年度：検討、一部実験

・図書館内のワーキンググループでの検討。

・それと平行して、ネットワーク技術（Webデータ収集ロボット構築・運用技術）を持つ組織（例えば、富山県立大など）との共同研究を行なうこととし、内容については一部実験しながら詰めていくという形をとる。

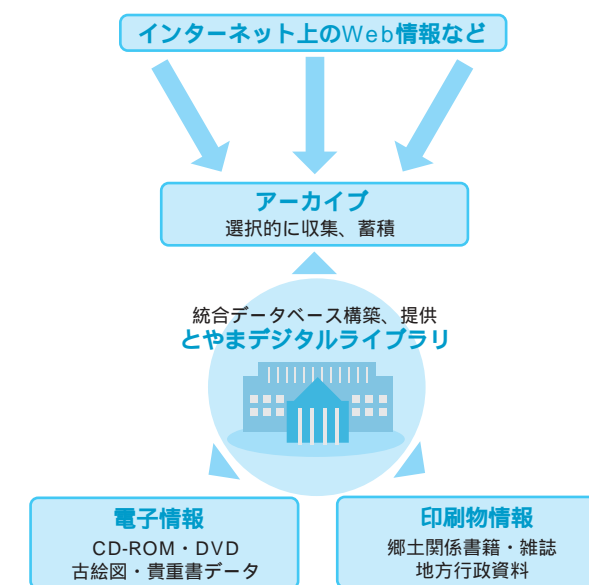
・地域内での安定的なアクセスを保証するという意味で、富山地域IXによる配信支援等の可能性についても検討。

平成16～17年度：実証実験

・アーカイブについては、県、市町村及び国出先機関等を収集対象として収集・蓄積し、比較的早い段階での一部公開。

・データベース構築にあたっては、郷土関係出版情報や郷土関係目録等を有効に活用。

図2：インターネットアーカイブを活用した郷土資料データベースの構築イメージ



（参考URL）

- ・文化遺産としてのネット情報～だれかが保存しなければ、次々と更新され過去のページが消えていく～（B.カール）
<http://www.sfc.wide.ad.jp/keiko/sciam/kahle.html>
- ・インターネットアーカイブの必要性（鶴川義弘）
<http://edb.miyakyo-u.ac.jp/ugawa/20001201/iArchive.html>
- ・図書館におけるインターネットアーカイブの構築（林賢紀）
<http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/ARG/compass-035.html>
- ・ウェブ・アーカイビング（上綱秀治）
<http://www.asahi-net.or.jp/ax2s-kmtn/internet/search.html#webarchiving>
- ・インターネット資源選択的蓄積実験事業（国立国会図書館）
<http://warp.ndl.go.jp/netwp/>
- ・消えゆくウェブを救え！～動き出すウェブ・アーカイビング～（廣瀬信己）
<http://www.asahi-net.or.jp/ax2s-kmtn/internet/dina.html>
- ・国立国会図書館におけるウェブ・アーカイビングの実践と課題（廣瀬信己）
<http://www.asahi-net.or.jp/ax2s-kmtn/internet/ipsj200305.pdf>
- ・富山地域IX（富山地域IX研究会）
「富山地域に、インターネットの相互接続点（Internet eXchange：IX）を構築し、地域内のプロバイダや、企業、大学などのネットワークを相互に接続する。相互接続点において地域内のトラフィック交換を行うことにより地域内のネットワーク間の通信を高速に行うことが可能になる。」
<http://www.toyama-ix.net/>



図1：逐次刊行物のように収集・整理された首相官邸のページ（日付をクリックすれば、このように過去のページを見ることができる。）



PROFILE

竹中 亮（たけなかりょう）
1960年富山市生まれ。
農政課、情報企画課、高志リハビリテーション病院等を経て、現在、県立図書館主任。
趣味は海外旅行、情報化はライフワーク。「許せん!」というのが口癖で、最近weblogを始めた。
(<http://www.yurusen.com/mt/>)